

岸田新内閣発足

10月に入っても暑い日が続いていましたが、今週になって、ようやく秋らしい冷え込みとなり、北の大地からは初雪の便りも届いています。全国各地の紅葉の名所は北から南へと見頃を迎えています。艶やかに色づく山並みや木々の景色は、自粛生活を余儀なくされた人々の心を癒やしてくれるものと思います。

さて、自民党の第27代総裁に選出された岸田文雄氏は、10月4日に召集された第205回臨時国会において、第100代の総理大臣に指名されました。岸田首相は直ちに閣僚人事に着手し、「新時代共創内閣」と銘打った岸田新内閣が発足しました。新内閣は、何れも衆議院当選3回となる、堀内詔子ワクチン接種推進担当大臣、小林鷹之経済安全保障担当大臣、牧島かれんデジタル大臣の若手を登用する等、初入閣が13人を数える刷新な顔ぶれとなりました。

岸田首相は8日、衆参両院の本会議において所信表明演説を行い、国民の声を真摯に受け止めかたちにする、信頼と共感の得られる政治を進め、全ての人々が生きがいを感じられる、新しい社会を創っていくとし、「新型コロナ対応」、「新しい資本主義の実現」、「国民を守り抜く、外交・安全保障」の3つの政策を着実に実行していく決意を表明しました。

喫緊の最優先課題に挙げた新型コロナ対応については、希望する全ての国民への2回のワクチン接種を進めるとともに、3回目のワクチン接種に向けた準備を整えるとしています。同時に、経口治療薬の年内実用化、電子的なワクチン証明書の活用、予約不要の無料検査の拡大にも取り組むとしました。

また、これまでのコロナへの対応を徹底分析し、危機管理のボトルネックを検証して、司令塔機能の強化や人流抑制、医療資源確保のための法改正、国産ワクチン、治療薬の開発など、危機管理を抜本的に強化することを明らかにしました。

新型コロナウイルスの新規感染者は減少し、19都道府県に発令された緊急事態宣言及び8県を対象としたまん延防止等重点措置は、9月30日をもって全て解除されましたが、楽観視することはできません。岸田新内閣のもとでコロナ対応を徹底するとともに、国民一人一人が基本的な感染対策を行い、感染の再拡大防止に努めていくことが重要となっています。

国会は与野党の代表質問を終えて、14日に衆議院の解散が宣せられました。衆議院議員選挙は19日に公示され、31日に投開票が行われます。国民が如何なる審判を下すのか、新内閣としての最初の試金石となります。